



▲議会改革の取り組みについて説明を受ける委員

施し、その結果を考慮して作成した条例案の市民説明会を三カ所で開催されています。また、条例制定前に、試行的に議会報告会を市内四カ所で開催したとのことです。本特別委員会は、最終案がまとまるまでに十六回開催され、当初の目標どおり十二月定例会において全員賛成により可決されています。制定までの期間が短いようにも思われますが、合併後の一期目の議員で制定しようという強い思いと、三町合併の市議会だからできたものだと思っっているとのことでした。

九州地方整備局雲仙復興事務所における雲仙普賢岳溶岩ドームの崩壊影響に関する技術的検討の実施並びに同事務所の防災監視・観測体制をさらに強化し継続させることを求める意見書

国におかれては、雲仙普賢岳噴火災害を契機として平成五年に雲仙復興事務所を開設され、砂防事業の推進を初め地域高規格道路「島原道路」の整備促進など、地域と一体となり事業の推進を図られているところである。

しかし、雲仙普賢岳では、噴火活動が終息した現在でも、山体斜面には約一億七千万立方メートルの火砕流堆積物があり、山頂部には約一億立方メートルの岩塊が溶岩ドームとして不安定な状態で存在している。このドームは、冷えながら自重沈降し放射線状に動いており、周辺から小規模な崩落が見られる。さらに溶岩ドームに大規模な亀裂が生じており、地震や大雨による大規模な崩壊が懸念されている。

一方、同事務所の火山砂防事業の進捗状況は、現在まで約九割に達しているが、対象事業は降雨による土石流対策に関するものであり、溶岩ドーム崩壊を想定した対応は、事業対象となっていないのが現状である。溶岩ドームの崩落対策については、特に高度な専門的知識及び技術が必要であり、このことは、大規模災害に備えたハザードマップの作成など災害に強いまちづくりを推進する上で非常に重要な課題である。

よって、国におかれては、住民の生命と財産を守り、災害に強いまちづくりの構築という崇高な理念のもと、下記の点について強く求めるものである。

記

- 一、溶岩ドーム崩壊に伴い発生する現象及び被害の影響範囲を調査対象として、学識者の意見を反映させ、雲仙復興事務所の高度な技術力を駆使し早急に検討を実施すること。
 - 二、土石流及び溶岩ドーム崩壊に対する地元住民の懸念が払拭されない中、雲仙復興事務所を国の出先機関原則廃止の対象とせず、防災監視・観測体制をさらに強化し継続させること。
- 以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

平成二十四年三月二十二日

島原市議会

鳥獣及び野犬被害防止対策の充実を求める意見書

近年、野生鳥獣による農作物や家畜への被害は、深刻な状態にあり、その被害は経済的損失にとどまらず、農家の生産意欲を著しく減退させ、ひいては農村地域社会の崩壊を招きかねない等、大きな影響を及ぼしている。

野生鳥獣による農作物被害額は、平成二十一年度において全国で二百十三億円、前年度に比べて十四億円増加している。鳥獣被害全体の七割がイノシシ、シカ、猿、カラスによるもので、農作物の被害にとどまらず、山林の荒廃を招き、豪雨時の土砂流出被害にもつながっているとの指摘もある。また、最近の報道によると、野犬の家畜等に対する被害が増加傾向にある。

このような状況を踏まえ、国においては平成十九年十二月、議員立法（全会一致）により、「鳥獣被害の防止のための特別措置に関する法律」が成立。これに基づき鳥獣被害防止総合対策交付金の支給や地方交付税の拡充、都道府県から市町村への捕獲許可の権限委譲など、各種支援の充実が図られてきた。

しかしながら、生息域の拡大を続ける野生生物による被害防止を確実なものとするためには、ハード・ソフト両面による地域ぐるみの被害防止活動や地域リーダー、捕獲従事者の育成、被害農家へのより広範な支援などの対策の強化が不可欠である。また、野生生物の保護並びに被害防止対策のための適切な個体数管理の上からも、正確な頭数の把握は欠かせないが、その調査方法はまだまだ十分なものとはいえず、早期の確立が望まれる。

よって、国におかれては、鳥獣被害防止の充実を図るため、下記事項を速やかに実施されるよう強く要望する。

記

- 一 地方自治体が行う被害防止施策に対する財政支援を充実すること。
- 二 鳥獣被害防止対策に野犬を加えること。
- 三 現場では有害鳥獣及び野犬対策についての専門家が不足していることから、専門的な知識や経験に立脚した人材の養成及び支援策を講じること。
- 四 有害鳥獣及び野犬の正確な生息数の把握ができる調査方法を確立すること。
- 五 効果的な野生鳥獣及び野犬被害防止対策を構築すること。

以上、地方自治法第九十九条の規定により意見書を提出する。

平成二十四年三月二十二日

島原市議会